

平成3年度堀坂川小規模河川改修事業に伴う

王子遺跡発掘調査報告

－松阪市伊勢寺町－

1992・3

三重県埋蔵文化財センター

序

広大な面積のほ場整備事業や道路改良及び河川改修などの公共事業、また民間企業による開発事業に伴う埋蔵文化財の保護に関する取り扱いは年々増加の傾向にあります。

三重県教育委員会では、埋蔵文化財保護行政の一環として、各開発関係部局の事業を照会し、事業予定地域内の埋蔵文化財の確認とその保護に努めてまいりました。

ここに報告する松阪市伊勢寺町所在の王子遺跡は、平成3年度堀坂川小規模河川改修事業に先立ち、事前協議の結果、発掘調査を実施し、記録保存されたものです。今回の調査は遺跡のごく一部分ではありましたが、鎌倉時代の溝や石組みなどが発見されました。祖先の残したこれらの歴史的遺産は、貴重な財産として保護され、後世に伝えていくとともに、今後の文化の向上発展の基礎として活用していかなければなりません。

調査にあたっては、県土木部河川課、松阪土木事務所、松阪市教育委員会をはじめ、地元の多くの方々の惜しみないご理解とご協力を賜りました。文末ながら記して深く感謝の意を表します。

平成4年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 中林昭一

例　　言

1. 本報告書は、平成3年度堀坂川小規模河川改修事業に先立って行われた緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

2. 調査は次の体制で行った。

　調査主体　三重県教育委員会

　調査担当　三重県埋蔵文化財センター

　主事　上村 安生

　研修員　高崎 仁

3. 調査にあたっては、三重県土木部河川課、松阪土木事務所、松阪市教育委員会ならびに地元の方々の協力を得た。

4. 発掘調査後の遺物整理については上記の担当者の他、管理指導課が行った。

5. 遺物の写真撮影は高崎仁が担当した。

6. 本報告書の執筆・編集は高崎仁が担当した。

7. 方位はすべて磁北である。

8. 本書で用いた遺構表示略号は下記による。

S D ; 清　　S K ; 土坑　　S X ; その他の遺構

目　　次

I. 前　　言	1
II. 位置と環境	2
III. 遺　　構	4
IV. 遺　　物	6
V. ま　　と　め	8

図版目次

P L 1	調査前近景（南から）	第1図	遺跡位置図	2
	南側調査区（南から）	第2図	遺跡地形図	3
P L 2	南側調査区（北から）	第3図	調査区位置図	4
	北側調査区（南から）	第4図	遺構平面図	4
P L 3	S X 3（東から）	第5図	土層断面図	5
	S X 3（西から）	第6図	S X 3平面図　断面見通し図	6
P L 4	出土遺物	第7図	遺物実測図	7
P L 5	出土遺物			

表目次

第1表	遺物観察表	9～10
-----	-------------	------

9. スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

I. 前 言

1. 調査に至る過程

今回実施した王子遺跡発掘調査は、平成3年度堀坂川小規模河川改修事業に先立って行われた緊急発掘調査である。

平成2年8月に実施した試掘調査結果をもとに、平成2年12月から3年1月に南側の約300m²について立会い調査を行った。その結果、鎌倉時代前半の土坑2基、溝1条が検出され、土師器杯、甕、山茶碗などの遺物が出土した。

平成3年8月には、さらに北側の地区の試掘調査を行ったところ、土師器、須恵器、山茶碗など平安時代から鎌倉時代の遺物が少量出土し、周辺に遺跡の広がりが想定された。

その結果、平成2年度の試掘調査によって本調査が必要とされている地区とあわせて約1,500m²について、本年度本調査を行うことになった。

2. 調査の方法と経過

発掘区全体が南北に細長く、また排土置場の確保のため調査区を3分し、南から順に発掘調査を行った。

小地区名は北から南に数字、西から東にアルファベットを与える、北西隅の杭を基準とした。

表土と無遺物層は重機により掘削し、その後、人力により面的におこなった。南の調査区の排土は中央の発掘区に置き、その調査が終了してから排土を戻し、中央調査区の排土は南調査区に置いた。北へ行くにしたがって調査区の大半が旧河道で、遺構・遺物とも殆ど無いものと判断されたため、北の調査区約500m²については調査を行わなかった。また河川の護岸や隣接地の崩壊を避けるため、実際には事業予定地域よりひかえて調査を実施した。そのため、発掘調査面積は610m²となった。

調査は10月15日から開始し、11月12日にすべて終了した。

調査日誌（抄）

10.15	晴れ	重機により表土除去。完了。
10.16	晴れ	地区設定。ベルコン搬入。
10.17		雨道具搬入。
10.18	晴れ	ユニットハウス・トイレ搬入。 作業開始。
		テント設営。ベルコン設定。
		B-24で石組み検出。
10.21	晴れ	午前中包含層除去。遺構掘削。
		B-24の集石部を区域いっぱいまで拡張。
		B-24集石部写真撮影。
10.22	晴れ	S D-1石列検出及び掘削。
		集石部・石列・調査風景写真撮影。
10.23	晴れ	西壁、南壁土層分層。
		西壁土層断面観察レベル設定。
		S D-1を南より掘削。
		集石部・石列・調査風景35mm写真撮影。
10.24	晴れ後 曇り	S D-1掘削ほぼ終了。
		B-24集石部写真撮影。
		西壁土層断面実測終了。
10.25	雨	作業中止。
10.28	曇り	午前 発掘作業終了。
		午後 調査区全景・S X 3写真撮影。
10.29	晴れ	調査区測量。
10.30	雨	遺構実測準備。実測。
10.31	曇り	遺構実測。
		重機にて排土を戻す。
		北調査区発掘準備。
11. 1	晴れ	地区杭設定。
11. 5	晴れ	ベルコン設定。遺構検出。
		北調査区表土掘削。S X 3実測。
11. 6	晴れ	調査区西側旧河道を掘削。
		ベルコンを道路まで搬出。
		道具類、テント片付け。
11.12	晴れ	撤収。

II. 位置と環境

伊勢平野のはば中央に位置する松阪市には、西の堀坂山系に源を発する中小河川が東流し、伊勢湾に注ぐ。北から順に三渡川、岩内川、堀坂川、阪内川等があり、南北に長い複合扇状地を形成する。現在の松阪市街西部にあたるこの地域には多くの遺跡が分布し、早くから開かれていたことが窺われる。

王子遺跡（1）は、堀坂山とその北方觀音岳を源にする堀坂川が形成する扇状地の扇尖部の堀坂川左岸、標高約40mの河岸段丘上に位置し、現在は桑畠になっている。北西に隣接して伊勢寺廬寺（2）、北には伊勢寺遺跡（3）が位置する。この地域を時代別に概観してみる。

〔繩文時代〕堀坂川流域には繩文土器片、サヌカイト片がわずかに出土しているに過ぎないが、阪内川流域には、前期の爪型文土器を探集する新田町遺跡（4）や中期の堅穴住居が検出された追上遺跡（5）などが見られる。

〔弥生時代〕伊勢寺町の北東約4kmに一志郡三雲町の中ノ庄遺跡がある。この遺跡からは、県下で最も古い遠賀川系土器が出土している。この拡散ルートの影響か、中期になると遺跡数は急増する。田高田

遺跡（6）、城垣内遺跡（7）、後期には川井町遺跡やパレススタイルの壺型土器が出土した蛸遺跡（8）などがそれである。

〔古墳時代〕前期には、二重口縁の底部穿孔壺型土器が多数出土した深長古墳群（9）がある。中期になると八重田古墳群（10）や全長95mで伊勢国最大の前方後円墳を含む宝塚古墳群（11）、帆立貝式古墳のある高地藏古墳（12）などがある。規模の卓越した古墳がこの地域に集中していることは、かなりの有力者が存在したことを見かがわせる。後期になると、平野が望める丘陵上には、瑞巖寺（13）、上文珠（14）、下文珠（15）、田村（16）、立野（17）など、数基～十数基からなる群集墳が出現して、その総数は100基を越える。なかでも形象埴輪が多く出土した常光坊谷古墳群（18）は、当時の生活を知る上で貴重であろう。

この時代の須恵器などの遺物が散布する遺跡は、概ね伊勢寺地区とその周辺に多い。遺跡の実態は不明であるが、丘陵部の古墳とのつながりが推定できる。



第1図 遺跡位置図 (1:50,000) (国土地理院 1:25,000 松阪・大河内)

〔飛鳥時代～平安時代〕伊勢寺廃寺（2）や丹生寺廃寺（19）は白鳳時代に創建されたと考えられる。伊勢寺廃寺では東西150m、南北180mの方位に乗った地割りが残り、複弁蓮華文の軒丸瓦や重孤文の軒平瓦などが出土し、寺域を区画する溝も検出されている。丹生寺廃寺では伊勢寺廃寺と同じ様な布目瓦が散布し、方形台地状の区画や低い土堤遺構が残っている。また付近には、丹生寺廃寺に瓦を供給した立野瓦窯跡もある。この時期の寺院建築は権力の象徴と考えられ、在地権力の基盤がこの付近にあったと推定できる。

平安時代の『和名類聚抄』には立野郷（立野町）、英太郷（阿形町）等の地名が散見され、阿形町や殿村町、曲町周辺にはほぼN30°Eの方位にのった古代条里制をしのばせる地割りが残っている。

現在判明している遺跡は、複合遺跡が多い。杉垣内遺跡（20）、曲遺跡（21）などはおおよそ奈良時代から室町時代までのものである。阿形遺跡（22）は、弥生時代から古墳時代と平安時代末期から室町時代まで、鳥戸遺跡（23）、出口遺跡は奈良時代から平安時代のものである。また、打田遺跡（24）は、

飛鳥から平安時代の遺跡で、検出された十数棟の掘立柱建物群は真北にのっている。また、出土遺物には円面鏡も含まれている。このことから堀坂川・阪内川流域が古代から中世まで継続的に繁栄していたといえよう。

〔鎌倉・室町時代〕鎌倉時代初頭には伊勢神宮の神領としての井井御厨、岩内御園、英太御厨、勾御厨などの地名が『神鳳鈔』に見られる。また室町時代になると、伊勢国司北畠氏の支配下におかれ、岩内城（25）、伊勢寺城（26）、立野城（27）、船江城などがつくられた。これらのことは、鎌倉時代・室町時代を通してこの地域にかなりの人口が集中していたであろうことを想像させる。昭和60年に伊勢寺町横尾で発掘調査された横尾墳墓群（28）は、尾根全体が墓域となっており、室町時代を中心とした時期の五輪塔が多数出土した。よって同地域と横尾墳墓群との関連も注目される。

以上、堀坂川・阪内川周辺地域における歴史的背景について述べてきが、古代から中世を通して、この地域が文化の先進地域であったことが窺える。



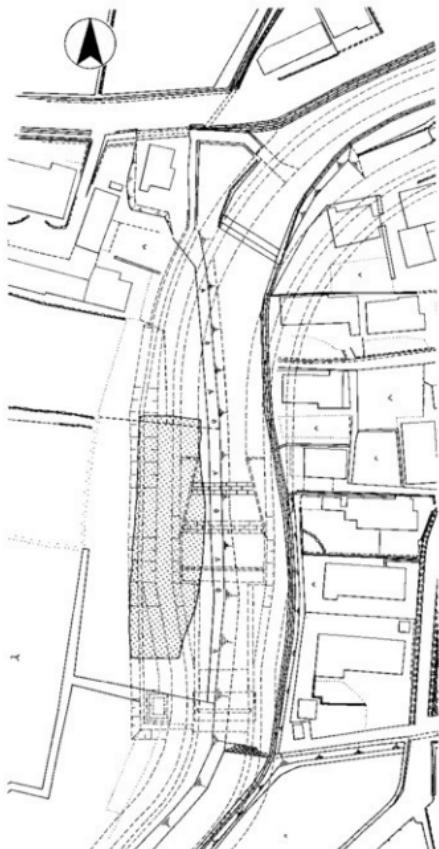
第2図 遺跡地形図 (1:5,000)

III. 遺構

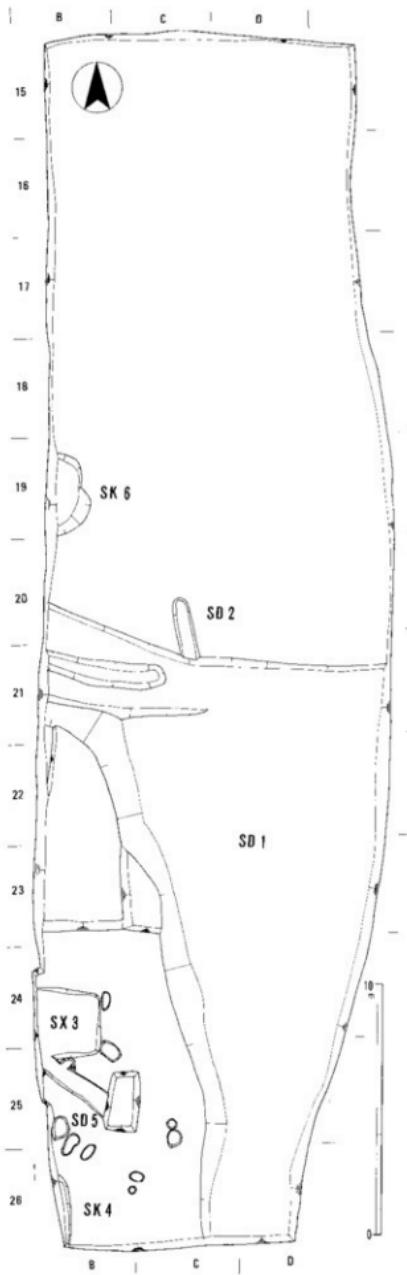
遺跡の層序は第5図に示した。最上層は耕作土が10~30cmの厚さで覆っており、その下に包含層が堆積している。遺構検出面は南西部が明黄褐色土、北部は黄褐色砂質土である。黄褐色砂質土のさらに40cm下層は黄褐色砂層となることから、黄褐色砂質土は旧河道の一部で、調査区の大部分が旧河道であったと考えられる。

1. 溝

SD 1 鎌倉時代前半の遺構で、調査区の南西部を



△第3図 調査区位置図 (1:1,000)
▷第4図 遺構平面図 (1:200)



除く南半分を占めている。SD 1は黄褐色砂質土が堆積した後の遺構であると考えられる。溝の埋土は暗褐色土上にレンズ状に青灰色砂質土がのり、その上に暗灰褐色土がのっている。SD 1の埋土からは、土師器皿・鍋、山茶椀・山皿、施釉陶器壺・甕、青白磁合子、青磁碗などが出土した。完形のものは少なく、破片が大多数を占める。

SD 2 調査区のほぼ中央にあり幅約60cm、深さ約10cm、長さ2.5mの溝で南端はSD 1と重複する。出土遺物はなく、時期は不明であるがSD 1よりは新しい。

SD 5 調査区の南西部で見つかった幅70cm、深さ15~20cmの浅い溝で、北西から南東に緩く傾斜している。北西端はSX 3と重複し、南東端は平成2年度の試掘坑で切られているため長さは不明である。SD 2同様に出土遺物が無いため時期は不明であるが、SX 3よりは新しい。

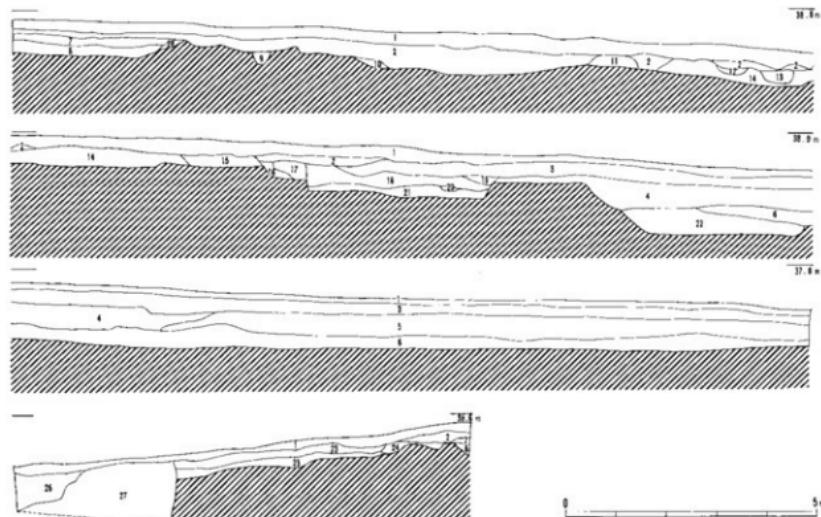
2. 集石遺構（第6図）

SX 3 調査区南西部で見つかった集石遺構で径20cm~40cmの石が西に面を擡て並んでいる。1列の長さは約2.5mで、2段ないし3段の石組みが残っており、3列並んでいる。埋土は暗灰褐色土で、石列の間からは土師器や山茶椀の破片が出土していることから、SD 1とはほぼ同じ時期の遺構と考えられる。遺構の性格は不明である。

3. 土坑

SK 4 調査区の南西隅で見つかった土坑で一部が確認されているだけで、規模は不明である。埋土から土師器や山茶椀の細片が出土しており、SD 1とほぼ同じ時期の遺構と考えられる。

SK 6 調査区のほぼ中央の西の端で検出され土坑で、黄褐色砂質土層を切り込んでいる。SK 4同様一部が検出されたのみで規模は不明である。埋土から山茶椀が1点出土しており、SD 1と同時期の遺構と考えられる。



第5図 土層断面図(1:100) 上3段 西壁断面 下 東壁断面

IV. 遺 物

SD 1 出土遺物 (第7図1~64)

今回の調査で出土した遺物の大部分はこの造構からのものである。土師器皿・鍋 (1~25)、山皿・山茶碗 (27~52)などが多く出土した。山茶碗の底部外面に墨書き (45~52) の見られるものがあった。「十」(45)、「南上」(46)、「8」の字のような文様 (47)、「長」(48)が読み取れるが、他は判読ができない。山茶碗 (44) はごく薄手で器壁厚は体部で約 2 mm、底部で 1 mm 程しかないので、美濃産と思われる。そのほか、土師器羽釜 (25)、瓦器碗 (26)、青磁碗 (54)、青白磁製の合子 (55.56)、三筋壺 (57)、甕 (58.59)、陶器鉢 (60.61)、器種は不明であるが注口のある陶器片 (62)、陶器碗

(63)、などが出土している。

S X 3 出土遺物 (65)

土師器皿・鍋や山茶碗が出土したが、ほとんどが細片で、墨書きのあった山茶碗の底部 1 点のみ図示した。文字としては判然としないが、花押と見てよいのではないか。

SK 4 出土遺物

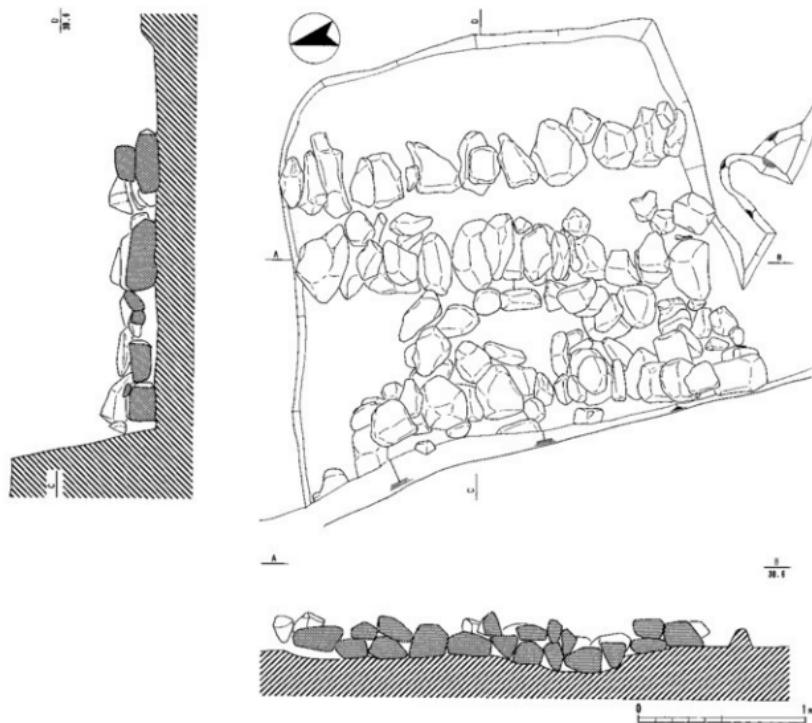
土師器・山茶碗片が出土したが細片のみで図示し難い。

SK 6 出土遺物 (66)

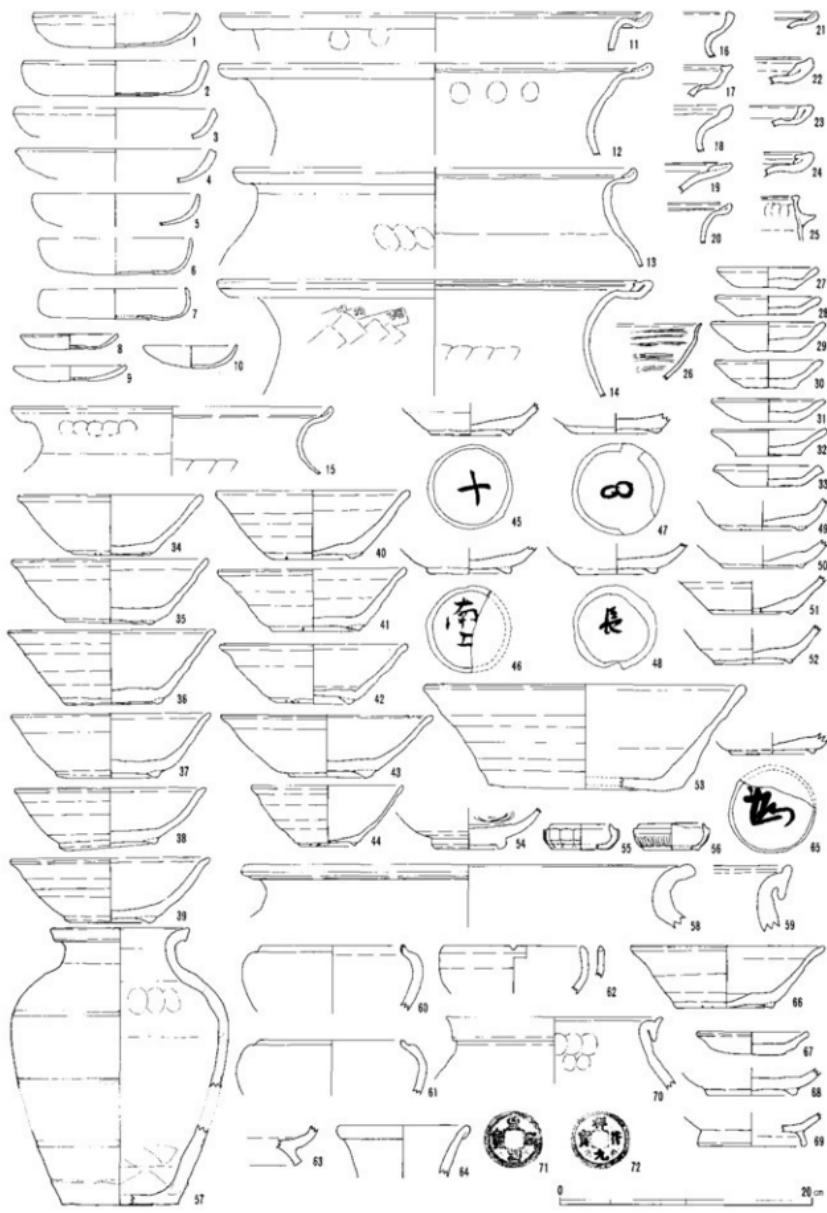
山茶碗 1 点のみ出土した。

包含層出土遺物 (67~72)

ほとんどが土師器皿・鍋や山茶碗・皿、陶器の細



第6図 S X 3 平面図 断面見通し図 (1:30)



第7図 遺物実測図 (1 : 4) (71,72のみ1 : 2)

片であった。(68) は底部外面に墨痕のあったもの、(69) は灰釉挽の高台部、(70) は常滑産の窯の口縁部である。また、北宋銭 2 点が出土した。(71) は至和通寶、(72) は祥符元寶である。至和通寶は文字が隸書、裏は無文、直径 2.46cm、重さ 3.16g、至

和 2 年 (1055) 年に鋳造されたものである。祥符元寶は文字が楷書、裏は無文、直径 2.53cm、重さ 4.16g、大中祥符元年 (1008) 年に鋳造されたものである。

V. ま と め

今回の調査は、河川改修事業の予定地内に限って行った。したがって南北方向に約 250 メートルにわたって広がる王子遺跡の東側縁辺部の一部を調査したに過ぎない。

今回の調査では、発掘調査区の南西部を除く大部分が堀坂川の旧河道であったことが判明した。検出された遺構の殆どは鎌倉時代のものであった。

南西部で見つかった石列遺構はその性格が不明である。出土遺物も鎌倉時代の土器や山茶碗片に過ぎず手掛かりとはなりにくい。今後類例の増加を待ちたい。

また、調査区の大部分を占める S D 1 から、土師器片や山茶碗片に混じって常滑三筋壺や青白磁合子が出土した。青白磁合子は県内では雲山経塚（伊賀町）や朝熊山経塚（伊勢市）、椎山中世墓（鈴鹿市）など経塚や中世墓からの出土が報告されている。このことから、今回の発掘調査区の近辺に中世墓があつた可能性も考えられる。

王子遺跡の大部分が未調査であるため、その全体像や性格について述べることはできないが、隣接して伊勢寺廃寺や伊勢寺遺跡など多くの遺跡が知られており、それらの遺跡と関連するものであろう。

参考文献

- 『松阪市史 第一巻資料編 自然』松阪市史編纂委員会 1978 年
『松阪市史 第二巻資料編 考古』松阪市史編纂委員会 1978 年
植本紀昭『鎌久三年「伊勢大神宮領注文」と「持風珍」——神宮領分析の基礎視角——』『史林 68 卷 1 号』1985 年
『鳥戸遺跡発掘調査報告』三重県教育委員会 1990 年
『横尾塚墓群』『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告第二分冊二』三重県教育委員会 1990 年
『常光坊谷古墳』『中部平成台田地理藏文化財調査報告書』松阪市教育委員会 1990 年
『愛知県古窯跡分布調査報告（Ⅲ）尾北地区・三河地区』愛知県教育委員会 1983 年
『下右田遺跡第 4 次概報・総括』山口県教育委員会 1980 年
『菊永氏城跡発掘調査報告』阿山町教育委員会・阿山町遺跡調査会 1987 年
『松阪市小野遺跡』『昭和 50 年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告 2』松阪市遺跡調査会 1976 年
『発掘された中世の三重』三重県教育委員会 1982 年
『猪野町平生 平生遺跡発掘調査報告書』平生遺跡調査会 1976 年
『上野市文化財調査概報 3 猪田経塚』上野市教育委員会 1975 年
『椎山中世墓』『三重用水加佐登調整池周辺遺跡発掘調査報告』鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市遺跡調査会 1978 年

第1表 遺物観察表

報告書 番号	登録№	出土位置	器種	法量(cm) 口径 器高		成形・調製技法の特徴	色調	胎土	焼成	残存度	備考
				口径	器高						
1	003-04	S D 1	土師器皿	12.8	2.7	口縁横ナデ	浅黄褐色	やや密	やや良	底部1/2	
2	005-14	C 2 2 S D 1	土師器皿	14.2	2.8	内外面ナデ	浅黄褐色	密	良	1/2	内面-口縁外部に暗灰紫色の付着物あり
3	003-05	C 2 2 S D 1	土師器皿	推15.6	推2.5		浅黄褐色	やや密	やや良	口縁1/8	
4	004-06	C 2 2 S D 1	土師器皿	推15.0	推2.2		浅黄褐色	密	良	口縁1/6	
5	004-02	B 1 9 S D 1	土師器皿	13.0	2.6	内面ナデ	浅黄褐色	密	良	1/3	
6	004-08	B 1 9 S D 1	土師器皿	11.8	2.8	内面ナデ	浅黄褐色	密	良	4/5	
7	005-15	D 2 4 S D 1	土師器皿	11.4	2.3		浅黄褐色	密	良	ほぼ完形	口縁部暗灰紫色の付着物あり器壁内窓
8	004-10	B 2 1 S D 1	土師器皿	7.6	1.2		黄褐色	密	良	完形	やや歪んでいる
9	001-11	C 2 2 S D 1	土師器皿	推8.8	1.2	内面ナデ 外面部オサエ	黄褐色	密	良	1/3	Φ0.5mmの石粒を含む
10	004-03	B 1 9 S D 1	土師器皿	推7.2	1.8	内面ナデ	黄褐色	密	良	1/2	
11	008-02	B 2 1 S D 1	土師器皿	33.8	不明	口縁内外面横ナデ	浅黄褐色	密	良	口縁一部	外面付煤
12	008-01	D 2 4 S D 1	土師器皿	推33.8	不明	口縁内外面横ナデ	浅黄褐色	やや密	良	口縁1/6	外面付煤
13	003-03	S D 1	土師器皿	31.4	不明	外面部オサエ 口縁横ナデ	浅黄褐色	密	良	口縁1/8	Φ1mm以下の砂粒多
14	003-02	B 1 9 S D 1	土師器皿	推33.0	不明	外面部オサエ 口縁横ナデ	浅黄褐色	密	良	口縁1/8	外面付煤
15	003-01	C 2 2 S D 1	土師器皿	推25.0	不明	外面部オサエ 内面二つ削り	浅黄褐色	密	良	口縁1/6	外面付煤
16	005-05	B 2 1 S D 1	土師器皿	不明	不明	口縁横ナデ	浅黄褐色	やや粗	やや良	口縁一部	外面付煤
17	001-09	C 2 2 S D 1	土師器皿	不明	不明		浅黄褐色	密	良	口縁一部	外面一部付煤 砂粒を含む
18	005-13	D 2 3 S D 1	土師器皿	不明	不明	口縁横ナデ	浅黄褐色	やや粗	良	口縁一部	外面付煤
19	005-10	D 2 3 S D 1	土師器皿	不明	不明	口縁横ナデ	浅黄褐色	やや粗	やや不良	口縁一部	外面付煤
20	005-11	D 2 3 S D 1	土師器皿	不明	不明	口縁ナデ	浅黄褐色	やや粗	良	口縁一部	内面暗灰紫色に変色
21	001-10	C 2 2 S D 1	土師器皿	不明	不明	口縁内面横ナデ	浅黄褐色	密	良	口縁一部	外面付煤 Φ1mm砂粒を含む
22	005-06	B 2 1 S D 1	土師器皿	不明	不明	口縁横ナデ	浅黄褐色	やや粗	やや不良	口縁一部	外面一部少量付煤
23	005-12	D 2 3 S D 1	土師器皿	不明	不明	口縁内面横ナデ	浅黄褐色	やや粗	やや良	口縁一部	外面に付煤
24	001-08	B 1 9 S D 1	土師器皿	不明	不明		浅黄褐色	密	良	口縁一部	Φ1mmの砂粒を含む 外面付煤
25	005-03	B 2 1 S D 1	土師器皿	不明	不明	外面部横ナデ体ハケメ 内面部オサエ	浅黄褐色	やや粗	やや不良	口縁一部	外面羽下付煤
26	004-11	B 2 1 S D 1	瓦器類	不明	不明	内面に深い酒さ 口縁横ナデ	暗青灰色	密	良	口縁一部	
27	004-09	B 2 1 S D 1	山皿	7.8	1.6	底部糸切り	灰白色	密	良	ほぼ完形	内面-口縁に自然軸
28	002-05	D 2 3 S D 1	山皿	8.0	1.5	底部糸切り	灰白色	密	良	1/2	
29	004-13	C 2 5 S D 1	山皿	8.8	12.3	底部糸切り後ナデ	灰白色	密	良	1/2	口縁部自然軸
30	002-04	D 2 3 S D 1	山皿	8.3	2.2	底部糸切り	灰白色	密	良	完形	口縁から内面の一部に自然軸
31	004-12	C 2 5 S D 1	山皿	8.8	1.8	底部糸切り	灰白色	密	良	3/4	内面一部口縁部に自然軸
32	004-14	C 2 5 S D 1	山皿	8.8	2.1	底部糸切り	灰白色	密	良	1/4	口縁端部自然軸
33	007-04	D 2 3 S D 1	山皿	推8.0	1.7	底部糸切り	灰白色	密	良	1/3	底部外面に不鮮明な墨痕
34	002-03	D 2 3 S D 1	山茶碗	14.4	4.8	底部糸切り	灰白色	やや密	良	1/3	柄巻直 自然軸
35	001-07	C 2 2 S D 1	山茶碗	15.2	5.1	口縁内面に弱い面をもつ	灰白色	密	良	1/2	底部を除く内面全面に自然軸

報告書 番号	登録№	出土位置	器種	法量 (cm) 口徑 器高	成形・調製技法の特徴	色調	胎土	焼成	残存度	備考
36	001-02	C 2 2 SD 1	山茶碗	16.0 6.0	底部糸切り後ナデ	灰白色	密	良	1/3	底部外側に不鮮明な墨痕 口縁一部に自然釉
37	002-01	C 2 2 SD 1	山茶碗	15.5 5.1	底部糸切り 口縁内面に苗	灰白色	密	良	1/2	口縁の一部に自然釉 烧成 痕 4mmの石粒を含む
38	002-08	C 2 3 SD 1	山茶碗	15.0 5.7		灰白色	密	良	ほぼ完形	一部自然釉
39	001-05	S D 1	山茶碗	15.6 5.1	底部糸切り	灰白色	密	良	完形	自然釉 切痕 φ0.5mm以下の砂粒を含む
40	007-02	D 2 3 SD 1	山茶碗	14.9 5.5	底部糸切り	灰白色	密	良	1/8	底部外側に不鮮明な墨痕 烧成痕
41	002-06	D 2 3 SD 1	山茶碗	推14.6 5.0	底部糸切り	灰白色	密	良	1/3	焼成痕 自然釉あり 底部外側に不鮮明な墨痕
42	004-07	D 2 4 SD 1	山茶碗	推14.6 4.7	底部糸切り	灰白色	やや密	やや良	1/4	内面～口縁端部に自然釉 焼成痕 φ5mm以下の砂粒
43	001-06	S D 1	山茶碗	16.6 5.0	底部糸切り 内面底部ナデ	灰白色	やや密	良	1/2	内面の一部と口縁端部に自 然釉
44	005-07	B 2 4 SD 1	山茶碗	11.8 4.9	底部糸切り	浅黃灰色	精	極良	1/8	器壁薄い 内面の一部 に自然釉 烧成痕あり
45	006-05	B 2 2 SD 1	山茶碗	高台 φ 6.0	不明	底部糸切り	灰白色	やや密	良	底部のみ 焼成痕
46	006-02	S D 1	山茶碗	高台 φ 6.1	不明	底部糸切り後ナデ	灰白色	精	良	底部1/2 焼成痕
47	006-03	B 2 1 SD 1	山茶碗	高台 φ 6.3	不明	底部糸切り	灰白色	やや粗	良	底部のみ 底部外側に不鮮明な墨痕8 焼成痕
48	006-04	C 2 2 SD 1	山茶碗	高台 φ 6.0	不明	底部糸切り	灰白色	精	良	底部のみ 底部外側に墨痕 長 焼成痕
49	007-07	D 2 2 SD 1	山茶碗	高台 φ 5.8	不明	底部糸切り	灰白色	やや密	良	底部のみ 底部外側に不鮮明な墨痕 焼成痕 φ1mm砂粒多い
50	007-03	C 2 1 SD 1	山茶碗	高台 φ 6.0	不明	底部糸切り	灰白色	密	良	底部1/4 焼成痕
51	007-06	C 2 1 SD 1	山茶碗	高台 φ 6.0	不明	底部糸切り	灰白色	密	良	底部1/5 底部外側に不鮮明な墨痕 焼成痕 内面 に自然釉
52	007-05	E 2 3 SD 1	山茶碗	高台 φ 6.0	不明	底部糸切り後ナデ	灰白色	密	良	底部のみ 底部外側に不鮮明な墨痕 焼成痕
53	002-07	D 2 3 SD 1	山茶碗 練り鉢	推25.0	推8.0	底部糸切り	灰白色	密	良	1/8 一部自然釉 φ8mmの石粒 を含む 黒斑がれか
54	002-02	C 2 2 SD 1	青磁 碗	高台 φ 5.2	不明	高台削り出し 全面難(底部外側を除く)	灰綠色	緻密	極良	底部1/2 内面に陰刻文あり
55	005-08	C 2 2 SD 1	青白磁 合子	推4.6 2.0			浅青綠色	緻密	極良	1/8
56	005-16	D 2 3 SD 1	青白磁 合子	推5.2 2.1			青白色	緻密	極良	1/5
57	006-01	D 2 3 SD 1	紫滑 三筋臺	推10.5 推22.0			灰白色	密	良	1/5 口縁部を欠く 口縁一部絆灰色自然釉
58	008-03	D 2 3 SD 1	常滑 壺	推35.0	不明	口縁横方向ナデ	褐色	密	良	口縁1/10
59	005-09	D 2 3 SD 1	常滑 壺	不明	不明	外回転ナデ	褐色	密	良	口縁一部 φ1mmの砂粒多い
60	004-04	D 2 3 SD 1	陶器 壺	11.0	不明	横方向ナデ	赤褐色	密	良	口縁1/4 61と同一個体? 口縁～肩に自然釉
61	004-01	C 2 2 SD 1	陶器 壺	推11.2	不明	横方向ナデ	暗灰白色	密	良	口縁1/8 φ1mmの砂粒を含む
62	005-01	C 2 2 SD 1	灰釉陶器 壺?	10.8	不明	ロクロ調製	灰白色	密	良	口縁1/4 注口アリ
63	005-04	B 2 1 SD 1	陶器 壺	不明	不明		暗灰紫色	密	良	高台一部 外側一部黒蒙
64	005-02	B 2 1 SD 1	灰釉陶器	10.0	不明	ロクロナデ	灰褐色	精	良	口縁1/4 全面釉が薄くかかる
65	007-01	B 2 4 SX 3	山茶碗	高台 φ 6.4	不明	底部糸切り	灰白色	やや密	良	底面部のみ もろくなっている
66	001-01	B 1 9 SK 6	山茶碗	15.0 5.0	底部糸切り	灰白色	密	良	完形	焼成痕 砂粒を多く含む 自然釉
67	001-03	D 2 6 包含壺	山皿	8.6 1.8	底部糸切り	灰白色	密	良	4/5	φ1mm以下の石粒を含む
68	007-08	D 2 5 包含壺	山茶碗	高台 φ 7.0	不明		灰白色	精	良	底部外側に不鮮明な墨痕 φ1.5mm以下の砂粒を含む
69	001-04	C 1 7 包含壺	灰釉陶器 壺	高台 φ 推8.4	不明	高台ハリッケ	灰白色	密	良	底部1/4 灰釉が殆ど認められず
70	004-05	C 2 0 包含壺	常滑 壺	推17.0	不明	口縁横ナデ	赤褐色	密	良	口縁1/8 φ5mm以下の石粒を含む

P L A T E



調査前近景（南から）



南側調査区（南から）



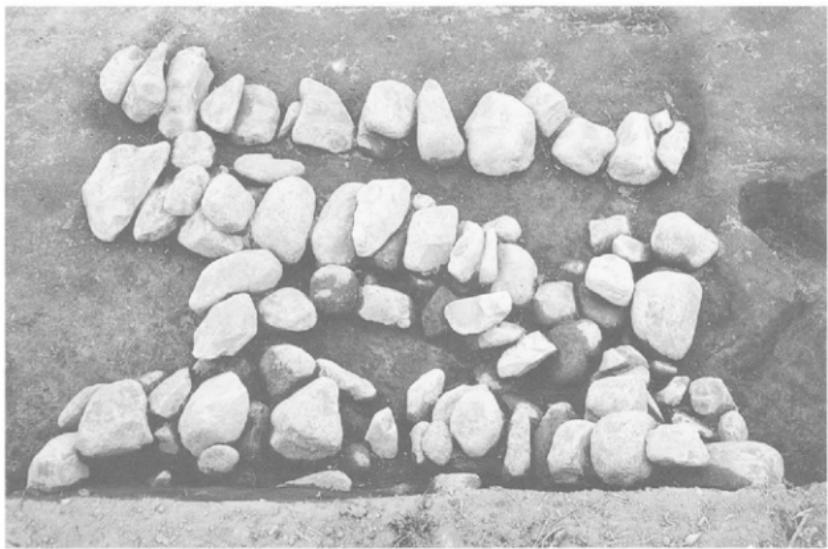
南側調査区（北から）



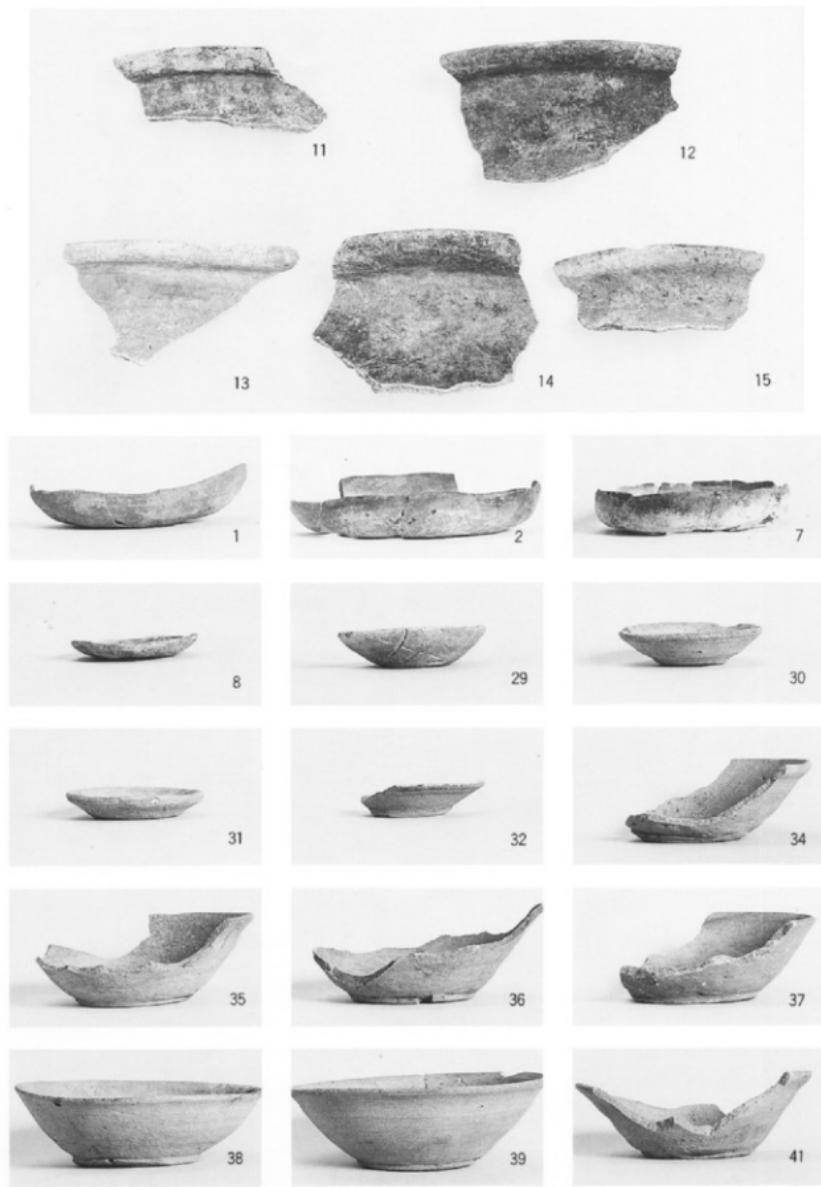
北側調査区（南から）



S X 3 (東から)



S X 3 (西から)



出土遺物 (1 : 3)



42



43



44



45



46



47



48



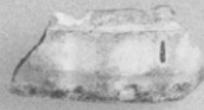
49



50



51



52



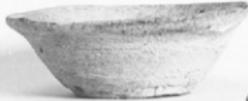
53



54



55



56



57



58



59



60

平成4(1992)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年1月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告106

平成3年度堀坂川小規模河川改修事業に伴う
王子遺跡発掘調査報告
—松阪市伊勢寺町一

1992(平成4)年3月

編集発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 光出版印刷株式会社
